

「愛」の聖書的定義

2012年3月31日 ダニエル・ジャスター

神は愛です

聖書には「神は愛です」と書かれています(第1ヨハネ4章16節)。それは神の御性質の最も深遠な部分なのです。しかし一方で畏敬すべき裁き主であるとも書かれています。出エジプト記には、ユダヤの伝統として、神の13の属性と呼び慣わされている神様の定義があります。

出エジプト記34章6～7節 「主、主は、あわれみ深く、情け深い神、怒るのにおそく、恵みとまことに富み、恵みを千代も保ち、咎とそむきと罪を赦す者、罰すべき者は必ず罰して報いる者。父の咎は子に、子の子に、三代に、四代に。」

この聖句では、罪が世代を越えて効力を持っていることと裁きをもたらすことが明言されています。それは悪い習慣は続く世代に繰り返されていくものだからです。愛である神は、愛の中で働き、また罪をも裁くのです。

愛と裁き

では愛とは何なのでしょう。私が聖書読解を繰り返して得た結論は、愛とは、「他人に対して、その方々の利益を追い求めていくあわれみの心で、その利益は、彼らに対する神様のご計画のなかで明らかにされるものなのです。」この定義の中には客観的な内容が含まれており、それは神様の基準に反するものは何であれ、愛と呼ぶことはできないからです。すべての人における神様のご計画は、すべての人に対する神様の義の基準に従ってのみ、実現されるのです。このことは**真実の愛は聖書的律法によって導かれるもの**ということです。聖書的律法なしには、わたしたちは単に感傷的にしかなれないのです。

義なる秩序は、人が主の御心にあるご計画を実現することができるようにするものですが、不義な秩序はそのようなご計画を妨げるものです。すべての人は神の御姿に似せて創られたものであり、等しく敬意と尊厳をもって処遇されるべき存在であり、罪と罰に関して裁きの日においてはすべて平等であるという聖書的な規範という意味合いを除いては、公義は公平とは異なります。

他人に対するあわれみの心

愛に関するこの定義は感情の領域を含んでいます。あわれみの心は私たちをして、あわれみを感じることができるよう、他人の立場に立ち、その方のために何かをするようにさせます。すべての人が、マルクス主義的定義における正義でいうところの公平な富を得るように召されているのではなく、義

なる秩序においては、その責任を負う人には十分な物質的な必要性(訳注:富など)が確かにあるのです。そういった必要性がないと、神のご計画の成就が妨げられるからです。

他人を愛せるようになるためには、私たちが神の愛を知ることが不可欠です。

愛は、その愛の対象となる人の価値を認識します。

私たちが他人を神様の似姿に創られたものとして見るとき、彼らのうちに、より素晴らしい価値を見いだすのです。神の愛を通してのみ、私たちは他人に対し**あわれみの心**を持ち得ることができるのです。私たちが神の似姿に創造されたことを知ると、神様の素晴らしさや、良さ、その愛やその義について、分かり始めます。また神様の計画の成就の一部を担い、すべての人類が神様を愛し、その支配に身を委ね、救い主であり王である御子イエシュア(イエス様)を知るようになるのを見たいと思うようになります。この目指すものには永遠の愛による交流が含まれているのです。

他人に対する神様のご計画

愛は、他の人が最高の状態になることを望んでいます。他の人の最高の状態とは、その方たちの人生において神様の御心がなされることです。誰かを愛する時、私たちはその方の上に神様のご計画が成就することを欲するようになるのです。この定義はいくつかの基準を適用することを保証します。**基準が侵されるのを許すと、必然的に不正と罪による秩序に陥り、ついにはそれぞれの神様による計画の成就を妨げ、また愛を壊してしまいます。愛は義なる秩序においてのみ発展するのです。**離婚家庭の子供において、かれらにとっての神様の御計画が成就することが、より難しいのです。結婚を重視しない社会は、破滅に向かっていくものです。

愛は単なる主観的感覚ではありませんが、感覚は愛の一部なのです。神からの愛と許しを世界に証しさせるような聖書的指針に基づく客観的基準を、愛は要求します。他人に対して、その方々の利益を追い求めていく**あわれみの心**は、**私たちの人生においてイエシュアによる転換させる働き**をもって、**聖霊の力によって、初めて実現可能なもの**です。彼こそが私たちを愛する存在に変えてくれます。

エルサレム市内全域の祈り

先週木曜日、エルサレムの6、7つの教会のメンバーが集い合同賛美&祈禱の夕べを開催しました。エディー・サントロとツヴィ・ランデルマン両師が、霊的闘いとしての賛美に集中した祈りを導きました。私たちは、終わりの時のイスラエルを取り巻く困難がいつそう強くなってきていると実感しています。この困難の中で主を見上げ、賛美していくことにより主の力が開放されることを学んでいかなければなりません。主は、悪意を良きことに変える力を持っておられます。神は最終的にすべての国の民

が悔い改め、救われることを望んでおられます。この患難の中でイスラエルは救われるのです(エレミヤ30章7節)。

この祈りの集会は、「グローバル・マーチ・トゥー・エルサレム(注)」の開催前夜に行なわれました。これは何もイスラエルに反対して百万人を集めようとする最初のケースではありませんでした(第2歴代誌14章9節)。また、これが最後という訳ではないのです。イスラエルに反対する世界的に力を合わせようとする考えは、よりいっそう悪化し、最終的には世界の全ての国がエルサレムを攻撃するのです(ゼカリヤ14章2節)。

注:「グローバル・マーチ・トゥー・エルサレム(訳注:全世界的な(百万人の)エルサレムへのマーチ)」:主催はアラブ・イスラム教徒でパレスチナと彼らの「首都」であるエルサレム「解放」を望むもの。このマーチはイランも支持しており、また、オバマ大統領の牧師であったジェレミア・ライト師(Trinity United Church of Christ)も支持しているということです。<http://unitedwithisrael.org/million-arabs-in-jerusalem/>より引用

エルサレムの複数の教会が、とても短い予告ながらも合同祈禱集会で集まることができたという事実は、素晴らしい霊的勝利のしるしです。愛と信仰により私たちが一つとなり立ちあがることにより、悪の力は散らされ落とされます(ルカ11章17節)。

過越の祭り

今週の金曜日の夕方は世界中のユダヤ人にとっての過越の食事(セデル)の日です。少なくとも、ユダヤ人の親戚のうち一人、あるいはその友人の一人はメシアニックジューです。私たちの民が、過越の犠牲の子羊であるイエシュアが世の罪を取り去ることと共に過越の祭りの完全な意味を知るようお祈りください。